

富山市八尾町小井波のせき止め湖堆積物中の埋没根株の14C年代

14C age of stump buried in dammed lake sediments of Koinami in Yatsuo Town, Toyama City, central Japan

小嶋 智 [1]; 岡村 祝明 [2]; 鈴木 和博 [3]; 大谷 具幸 [1]; 野崎 保 [4]; 永田 秀尚 [5]

Satoru Kojima[1]; Noriaki Okamura[2]; Kazuhiro Suzuki[3]; Tomoyuki Ohtani[1]; Tamotsu Nozaki[4]; Hidehisa Nagata[5]

[1] 岐大・工・社会基盤; [2] 岐阜大・工・社会基盤; [3] 名大・年測; [4] なし; [5] (有)風水土

[1] Dept. of Civil Eng., Gifu Univ.; [2] Dept. Civil Eng., Gifu Univ.; [3] Nagoya University Center for Chronological Research;

[4] Arcege Inc.; [5] Fu-Sui-Do Co. Ltd.

富山市八尾町小井波は、富山平野の南に位置する別荘川沿いの平坦な小盆地である。盆地の標高は460 m程で、標高約600~800 mの山々に囲まれる。盆地の南には東北東-西南西走向の断層(活断層ではない)があり、この断層の北側には主として新第三紀中新世の楡原・岩稻累層が、南側には飛騨帯の船津花崗岩や手取層群が分布する。火山岩および火山碎屑岩から成る岩稻累層分布域には、多くの地すべり地形が発達している。小井波盆地は、盆地の北東側の、幅約500 m、長さ約800 mの地すべりの末端が別荘川をせき止め、その結果形成された湖が埋め立てられてできたものである。1977-79年の農地改良事業の際に、せき止め湖堆積物から直径2~5 mの根株から成る埋没林が発掘され、その内の1本の根のAMS 14C年代を測定したところ、2475±30 BPという年代を得た。暦年代には変換していないが、この年代は縄文晩期~弥生早期にあたる。一般に大規模地すべりの誘因には地震、集中豪雨などが考えられる。この地すべりの誘因を特定することは難しいが、もし地震が誘因であるとするならば、周辺に分布する活断層のうちこの地すべりを引き起こす可能性が最も高いのは、最終活動時期、再来周期などから跡津川断層と考えられる。